

館山まるごと博物館

# 青木繁「海の幸」ゆかりの 漁村のまちづくり

池田恵美子 NPO法人安房文化遺産フォーラム事務局長

明治の世を迎えて、日本の油絵技法が紹介され、それを駆使した青木繁。その代表作『海の幸』が制作されたのが館山市にある小谷家。画壇の聖地として後世に残したいと多くの美術家が望み、市民はまちづくりの核としたいと願った。ともに連携して保存基金を創出し、2カ年の修復工事を経て小谷家は蘇り、今春から一般公開が始まる。

撮影●北谷幸一





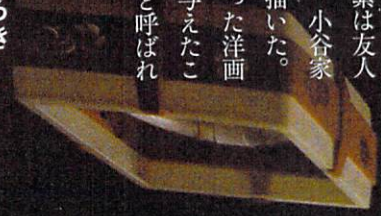
かつてマグロ漁で栄えた房総半島南端の館山市布良（富崎地区）は、房総開拓神の天富命（アメノトミノミコト）が上陸したといわれる神話の里である。水平線上に伊豆の島々が並び、布良崎神社では2つの鳥居の向こうに富士山が見え、美しい景観にも恵まれている。

沖合の布良瀬は豊かな漁礁であるが、複雑な潮流のため遭難事故が絶えなかった。漁師たちは冬の厳しい漁撈に耐え、舟歌『安房節』を歌いながら励まし合った。冬に輝く赤い星（学名カノープス）は「布良星」と呼ばれ、亡くなった漁師の魂だと傳承されている。

1904年夏、画家の青木繁は友人らと恋人とともに布良の漁家・小谷家に滞在し、名画「海の幸」を描いた。後に日本初の重要文化財となった洋画であり、多くの画家に影響を与えたことから、布良は美術界の聖地と呼ばれている。

### 3つの「あいのまちづくり」 青木繁・安房節・アジのひらき

青木繁の没後50年にあたる1961年（昭和36）、風光明媚な布良海岸に県営のユースホステルが開設された。当時の館山市長田村利男は、青木の旧友であった画壇の著名人らに呼びかけて基金を募り、翌年「海の幸」記念碑



#### Emiko Ikeda

NPO法人安房文化遺産フォーラム事務局長、  
青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会事務局次長、  
事業構想大学院大学事業構想研究所  
プロジェクト研究員、公益財団法人地球友の会理事、  
NPO法人全国生涯学習まちづくり協会講師。

修復工事がなった、青木繁「海の幸」誕生の家、小谷家住宅内部。公開が待たれる。



を建立した。ユースホステルが営業停止となった1998年（平成10）、記念碑にも撤去命令が出されたが、後世に残したいと願う住民運動により保存されることになった。

水産業の衰退に伴い少子高齢過疎が進んだ近年、館山市立富崎小学校では、伝統的な漁村文化を象徴する「青木繁・安房節・アジの開き」の頭文字をとって、3つの「あ」のふるさと学習を実践してきた。現在は統廃合のため休校となっているが、3つの「あ」のまちづくりとして、市民活動に継承されている。

2005年、NPO法人安房文化遺産フォーラム（代表愛沢伸雄、以下、NPOフォーラム）と富崎地区コミュニティ委員会は連携して、青木繁「海の幸」100年の集いを開催した。このとき小谷家<sup>こたに</sup>家主から「地域活性化のために、昔のままの住宅を残したい」との発言があり、まちづくりへの機運が高まった。2008年に「青木繁『海の幸』誕生の家と記念碑を保存する会（会長嶋田博信、以下、保存会）」が設立され、その事務局はNPOフォーラムに付託された。

保存会では、周辺の草刈などの環境整備やウォーキングガイド、講演会・シンポジウム、調査研究、漁村の伝統



（写真：館山市役所提供）



（写真：石橋財団提供）

2 「海の幸」記念碑。辻永、坂本繁二郎、河北倫明らが発起人となり、青木繁没後50年に建立。設計は現代日本建築家生田勉。3 青木繁肖像（1882—1991）。福岡県久留米出身。東京美術学校を卒業し、白馬会などで活躍し嘱望されたが、30歳で病没。4 青木繁「海の幸」誕生の家・小谷家住宅（館山市指定文化財）。全国の美術家の募金により修復工事を経て、2016年春より土日のみ一般公開が始まる。海鼠壁も復元して蘇った。5 平書院欄間彫刻。「安房郡国分村／後藤喜三郎／橘義信作」の刻銘がある。





料理「おらがごつつお（我が家のご馳走）」のレシピ集作成など、多様な活動を進めてきた。国交省や文化庁の地域活性化事業等に選定され、先駆的な活動と評価を得ている。

### 青木繁「海の幸」誕生の家・小谷家住宅の保存活用

2009年に小谷家住宅は館山市指定有形文化財となったが、維持管理費用は所有者負担とされ、一部は緊急に修復する必要があると指摘を受けた。修復事業の検討にあたり、小谷家当主夫妻の居住部は物置を増改築して管理棟に移し、文化財建物を公開する方針で合意した。総事業費は、約4600万円と算出され、保存会では広く入会や寄付を呼びかけることになった。

翌年、全国的美術関係者らも同じ目でNPO法人青木繁「海の幸」会（以下、海の幸会）を発足させ、先頃ノーベル医学・生理学賞を受賞した大村智先生が理事長に就任された。東日本大震災の影響で寄付が困難になったが、著名な画家のチャリティによる青木繁「海の幸」オマージュ展を全国巡回で開催してきた。

行政もまた、館山市ふるさと納税において「小谷家住宅の保存活用事業」を指定して寄付できるように支援体制

を整えた。小谷家当主・保存会・海の幸会・館山市の4者の協働により基金を集められ、2カ年にわたる修復工事を終え、今年4月に一般公開となる。

修復予算に含まれていなかった造園整備や手すりの設置、屋内の造作・設営等の作業は、保存会の積立金により市民参加型のワークショップでおこない、公開に向けて準備を進めている。

### 漁村の誇りを育む歴史文化

「海の幸」の誕生を支えた小谷家は、これまで漁家といわれていたが、近年発見された古文書や書画から、当主の喜録は教員や村会議員、帝国水難救助会布良救難所の看守長などの要職を歴任し、村政に関わっていたことが明らかにになってきた。

水産伝習所長の関沢明清から送られた書簡には、生徒が実習で世話になった謝意とともに「日本重要水産動植物図」を贈ると記されている。屋内に掲示されていた3枚の魚貝図が、パリ万博に出品された日本初のカラー図版だったのである。青木繁が友人に宛てた書状には、40種に及ぶ魚貝名が記されており、青木も眺めていた可能性が推察される。

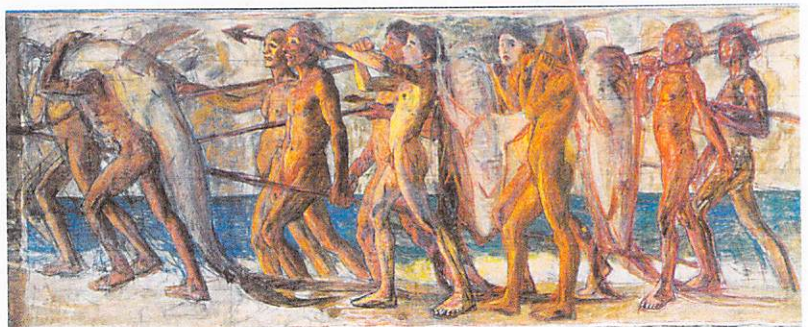
キリスト者の内村鑑三は、その水産実習に教員として同行しており、富崎

村長の神田吉右衛門との出会いが人生の転機になったと自著に記している。美術史と水産史が結びついて新たな地域像が浮き彫りになり、住民は地域への誇りを育んでいる。

明治期の布良崎神社祭礼では、1tの大神輿を担いだまま海に入っていく「御浜下り」という神事があったという。夕陽を浴びて、神輿と漁師の肌が黄金色に輝く様子は荘厳であつたらう。青木繁もこの光景に着想を得て、「海の幸」の構図が生まれたのではないかと考えられている。漁村の人びとが芸術や歴史文化に関心を持ち始め、地域の人びとが、いきいきと調査やまちづくり活動に取り組む姿は、さながら市民学芸員といえよう。

### 館山まるごと博物館

NPOフォーラムでは、地域全体の魅力的な自然遺産や文化遺産を「館山まるごと博物館」ととらえ、市民の学習・研究・展示や保全活動を通じて、エコミュージアムのまちづくりを進めている。1980年頃から高校の地域教材づくりに始まり、その後、市民による戦争遺跡や中世城跡の調査・保存運動に広がった。館山海軍航空隊赤山地下壕跡は館山市指定史跡となり、里見氏稲村城跡と岡本城跡は国史跡とな



「海の幸」 青木繁画 1904年  
油彩・カンヴァス 公益財団法人石橋財団所蔵。(写真:石橋財団提供)

った。青木繁「海の幸」誕生の家・小谷家住宅のほかにも、江戸期建立のハングル「四面石塔」や遭難救助の「日中友好」碑、日本一隆起している地層・震災の痕跡、終戦時の米占領軍上陸と直接軍政等々、多様な地域資源に磨きをかけ、スタディツアーガイドや国際交流を実践している。国内外からまちづくり視察も来訪し、地域創生のカギとして期待されている。

●総合プロデューサー  
柏木正博  
(大正大学地域構想研究所副所長)

●編集  
大正大学 地域構想研究所

●編集長  
渡邊直樹  
(大正大学表現学部教授)

●副編集長  
駒井誠一

●編集  
丸田明利  
川島敦子

●編集兼校閲  
一寸木紀夫

●アートディレクター  
大久保裕文  
(ベター・デイズ)

●デザイン  
高橋みづ穂  
村上知子  
川崎寛朗  
井上裕介  
(ベター・デイズ)

●営業・広告  
石田順子  
石田 聡  
(ティー・マップ)

●販売  
伊東和則  
(ティー・マップ)

地域人 第7号  
2016年4月1日発行

●発行人  
柏木正博

●発行所  
大正大学出版会  
〒170-8470  
東京都豊島区西巣鴨3-20-1  
電話 03-3918-7311 (代表)

●制作  
大正大学事業法人  
株式会社ティー・マップ  
電話 03-5907-3971 (代表)

●印刷所  
大日本印刷株式会社

©大正大学地域構想研究所  
本誌掲載の記事・写真の無断  
転載および複写を禁じます。

# 地域創生のための総合情報誌 「地域人」第8号は 4月11日(月)発売予定!

巻頭インタビュー | アレックス・カー 東洋文化研究者

## 地域特集 | 千葉県

「千葉都民」と呼ばれる都内への通勤者のベッドタウンのイメージがある千葉県北部。しかし、国家戦略特区に指定され、無人飛行機(ドローン)を使った宅配サービスなどの実証実験に取り組む千葉市や、成田山新勝寺、成田国際空港を有し、県内2位の入込数を誇る成田市、通勤圏内でありながら、県内有数の内陸工業団地と近郊農業地域を擁する佐倉市など地域創生の先進事例を多く抱える自治体が多い。次号では、記者が足で探した千葉の魅力を多角的に紹介する。

### 豪華連載陣

養老孟司 / 清成忠男 / 島蘭進 / 金子順一 / 小峰隆夫 / 滝村雅晴 / 河合雅司  
菅野芳秀 / 松平定知 / 涌井雅之 / 野田文隆 / 森枝卓士 / 能勢修治 / 佐々木文平 ほか

### 地域情報「コアコアBOX」

地域の「こんなこと・あんなこと・こんな人・あんな人」の情報を収集・発信する拠点が「コアコアBOX」(<http://chikouken.jp/koakoa>)。お住まいの地域にまつわる情報を皆さまから広く募集しています。ここに寄せられた情報を中心に、独自に集めた地域情報を幅広くご紹介します。

- 「地域創生 私の提言」  
読者からお寄せいただいた地域創生についての「私の提言」をご紹介します。政策提言レベルのもので、原稿は1200~4000字にまとめてお寄せください(写真添付可)。
- 「地方出版 新刊情報」  
地域に根差した出版活動を行っている地方出版社の書籍・雑誌をご紹介します。新刊の情報(案内、書影データ)をお寄せください。
- その他  
詳しくは上記ホームページをご覧ください。

本誌スタッフと一緒に  
地元の取材をしていただける  
フリーランスカメラマン、  
ライターを募集します!

「地域人」では、地方で  
地元に着した取材活動をしている  
フリーカメラマン、フリーライターを  
募集しています。プロフィールと作品の  
コピーを編集部宛にお送りください。

送付先: 〒170-8470  
東京都豊島区西巣鴨3-20-1  
大正大学地域構想研究所内  
「地域人」編集部

※内容、発売日は変更される場合があります。

### 編集後記

か つて、編集とは「削り落すと作業」だと聞いたことがある。

素人同然だった私であるが、まがりなりにも取材を終えて、始めにやる作業は、文字起こしと、それを削る作業である。やって初めて実感したものである。充実した取材であればあるほど、採用する内容を選別することは楽しいことであり、また、同時に相手のことは差し置いての編集作業は、時間をとって取材に対応していただいた方々の顔を浮かべると誠に申し訳ない思いでいっぱいである。ところで、昨年の9月に創刊した「地域人」は今号で6冊目を数える。文字離れ、出版不況の時代、無理だと言われながらの船出であったが、地方創生ということばの後押しもあってか、関係各位から好評をいただいている。有難いことである。また4月から、新企画が続々と登場する予定、御期待ください。

(柏木)

## 千葉県 館山市

合計特殊出生率 千葉県ナンバーワンのまち

- 69 地域構想研究所レポート  
館山市の基本情報
- 72 「ちょうどいい田舎」館山市の潜在力を生かす  
海の魅力に磨きをかけ移住者や  
観光客を呼び込む

金丸謙一 館山市市長

聞き手=柏木正博 本誌編集発行人

- 78 館山まるごと博物館  
青木繁「海の幸」ゆかりの  
漁村のまちづくり  
池田恵美子 NPO法人安房文化遺産フォーラム事務局長



表紙イラスト◎北村人

## 97 地域情報

こんなこと、あんなこと、こんな人、あんな人

## コアコアBOX

## 連載

- 32 人口減少下の地域を考える  
小峰隆夫

法政大学大学院政策創造研究科教授

- 34 松平定知の歴史散歩 信州・上田  
松平定知

元NHKアナウンサー

- 58 「地域人」づくり誌上セミナー  
佐々木文平

マチオリ代表取締役

- 62 人間と自然資源 気仙沼・石巻  
古田尚也

IUCN日本リエゾンオフィスコーディネーター

- 82 雇用問題を考える  
雇用社会の行方と働き方の未来  
金子順一

大正大学地域構想研究所客員教授

- 84 地知志 食

ちらししよく  
大津市 観光プロデューサー 檜垣 敏

滝村雅晴

パパ料理研究家

- 90 リノベーション地域創生  
能勢修治

石本建築事務所 設計統括、プリンシパルアーキテクト

- 126 直言!「今月の地域構想」

清成忠男

地域構想研究所  
最高顧問

- 96 河合雅司の地域興論  
河合雅司

産経新聞社論説委員

- 113 食から始まる地方再生  
森枝卓士

フォトジャーナリスト

- 116 随想

人類第三の革命と永続的な  
命のつながりに想いを馳せる

涌井雅之

造園家、ランドスケープアーキテクト

- 118 十人十心

野田文隆

大正大学名誉教授、めじろそらクリニック院長

- 120 おきたま通信「百姓の独り言」

菅野芳秀

置賜自給圏推進機構常務理事

- 124 ふるさとと神仏のゆくえ

島蘭進

宗教学者、上智大学グリーンケア研究所所長

- 112 啐啄

柏木正博 本誌編集・発行人

- 128 次号予告／編集後記

## 第7号 地域人

